

は じ め に

この年鑑は、平成22年（一部は平成22年度）における人口動態統計、医療施設調査、病院報告、地域保健・健康増進事業報告等の各種保健統計調査結果についてとりまとめたものです。

本県の平成22年の人口動態統計についてみると、合計特殊出生率は1.56で、前年を上回り、出生数については、1万人台に回復しました。また、全国的には前年に引き続き、死亡数が出生数を上回る自然減となっており、本県でも、平成11年以降、自然減の状態が続いています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、本県は今後も少子・高齢化、人口の自然減が続き、平成27年には、人口は1,154千人、高齢化率は30.3%になると推計され、将来の経済社会に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

本県ではこうした状況を踏まえ、平成24年1月に「安心・活力・発展プラン2005」を改訂し、「子育て満足度日本一の大分県」の実現に向け、今後も「子育ての喜びを実感できる社会づくりの推進」に取り組むとともに、「高齢者の元気づくりと新たな支え合いづくり」に取り組んでいきます。

人口減少社会の到来に伴う県民ニーズに的確に対応し、将来を展望した施策の展開を図るためには、地域の実態や特性の詳細な分析が必要であり、その基礎となる保健統計資料はますます重要となってくるものと考えます。

この年鑑が行政に携わる方々だけでなく、広く関係の皆様にご利用されることを願いますとともに、この年鑑を刊行するに当たり、調査にひとかたならぬ御協力をいただいた市町村の方々をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

大分県福祉保健部長 永 松 悟